

## 研究推進委員会通信

平成30年8月31日

白鳥地区小・中・高合同教科部会が開催され、本校から11名の先生が参加してくださいました。本通信では、参加された先生の感想を中心に掲載します。

本教科部会には、岐阜大学教職大学院の三島晃陽先生が参加され、ご講演いただきました。郡上市の人口減少や高齢化はいまでも大きな課題として捉えられていますが、2040年になったときには「高齢者1人の生活を支える人数が1人を切る」という時代が訪れるという資料を提示し、児童生徒にそのような社会を生き抜くことができるような力を付けなくてはならないと述べられました。では、どのような力が求められるか？というのはこれまでの通信でも何回か書かせていただきましたが、新大学入試で問われる力です。本校は就職希望者も多いのですが、新大学入試で問われる力は社会で求められる力と捉えても間違いはないと思います。その力を育成する手段として、本校の原田先生の持参したプリントにあった「自己評価」欄が紹介されました。自己評価というのはメタ認知（自己の力を客観的に捉える）を促すものだと言われています。ぜひ、各教科でも導入をご検討ください。また、郡上北高校への期待がとても大きいということがわかる教科部会でした。若手の先生が多いですが、郡上北高校だからこそ様々な取り組みができます。ぜひチャレンジしてみてください！



## 参加された先生の感想・他の先生と共有したいこと

- ・保護者向けの自学自習ノートの手引きを示す（学習する環境づくり、声かけ、自分からできるように・・・）。
- ・何がわからないかがわからない生徒を生まないために、教科本来を好きになってもらえるようにする。専門用語は使わない、わかった！と思えるまで指導をする。
- ・大学入試センターのプレテストの出題のねらいを読むことで、授業改善に生かせる。
- ・小中学校で技能面の基礎を教えていることを知れたので、高等学校ではその技能を集団で活かす力や、各競技の運営方法などの知識を深める授業を行いたい。
- ・どのような教育を受けてきた生徒が郡上北高校に入学してきたかがわかった。
- ・説明することの大切さ（根拠をもとに順をおって話す場を設ける）。
- ・ユニバーサルデザインの視点に立った教材の提示。
- ・特別な支援が必要な生徒がいる場合は、外部の機関と連携して学びを支援していく。
- ・單元ごとに付けたい力を明示している。
- ・小・中学校では英語科において「音」を中心にインプットしているという点で共通認識がされている。
- ・高等学校の教員が小・中学校の学びを知ることが大切。その学びを高等学校で発展させていく。
- ・小中高の教員が演奏会を生徒に聴いてもらい、楽器の音色を楽しむ授業ができれば素晴らしいと思います。
- ・誰もがわかる授業づくり（ユニバーサルデザイン）

「わかる授業」というのは、教えるレベルを落として簡単にするのではなく、その内容を小・中学校段階まで振り返って教えることだと思います。熊崎は情報処理やビジネス実務の授業で、右辺から左辺に移項すると符号が逆になるということや、不等号は食いしん坊だから大きい方に口が開くということからはじめ、徐々に難問に挑んでいきます。絶対に知っていると思うことでも、確認して授業していくと良いと思います。

## 第2回授業研究会のお知らせ

9月20日（木曜日）7限 2年1組文系 数学Ⅱ（奥西先生）です！